雪韋集

上

雲雀集序

登師乃或問弥といふる発
世ふるこゝろ高きまこと実城
自分自然にかゝあつめる
ふるまひあり俳諧印板
祝離乃ふるあみ鳥者と共に
よめ侍りかゝふ

その題号をしはせもは
まりぬるといなかりし
去るとし鳥取阿人子布の
庵の雅古机中よりもほゝ
頼みあらねと去年此系末の
残しおけるをもとめえて冊子
懐ましく東都よ某豆葉記

に杖をとゞめて年心ゟ我か登哉
気移きそ四季にかへる一編
登池の志をむねとし先人
翁夫彼記を掲にのせて
にしかけれえ祖翁塚ある
後藤のおはしまし如舟
豫志の一句に続の記と

猶しかふかき禁にすゝめ發起集と
いへるを著しけるに其の師生涯
あさくしも猶編集のはし絶て
やむも見さしいつの年その
灰燼となりけるをなげき發集
ふるひ世に弘まるを願
さゝやく　嗚呼　安河の追慕

雲ゐの聲何するぞ見えにとゞと
おもちにて雲の浮ちと見ゆるなる
京に来庵を結ひ社中誰も見れに
ものゝをたすけ猿茶三昧に
露し乃花をめとめ或は学仙
翻訳等をそめして会刻せ
なかし　四方に領つて白髪

世念おのづから起るを却す法
なるべしいふ是此冊子の
標示なるべし公儀道の
樗眠なるべし二子も需りて
意を世事に寄せ達する
ういつゝ待る事時宜改三変
功月日

両編乃校定既畢て清書成
事を托せられ乃姪を
或問珍再刻の事
蓼先師在世所に為
編しことあるは今
四世孫の事なる至
二編の筆とせる成

よ[illegible]ひ具[illegible]地[illegible]櫻木
[illegible]と山毒午心[illegible]
取[illegible]

俳諧或問珍

或人問曰発句切字入作事ハいかなる
細[illegible]人[illegible]尋[illegible]和歌ハ三十一字[illegible]
[illegible]句ハ上下[illegible]天ハ[illegible]地[illegible]
陰陽[illegible]陽陽合[illegible]一道
なる発句[illegible]俳[illegible]十七字[illegible]ハ[illegible]切
字[illegible]天地[illegible]切字
[illegible]
[illegible]

答曰さしも事ゝ敷おもへる詠
よ京ゝのかゝりの面又稀やとく
十七字めふやとひとつ白なるいつ
くゝゝの白紙二ゆゝゝゝ地ふし
陰陽を分てゝいんや結く考て見
ゝ色し切ゝゝいつゝゝ大切のゝ
ふゝ遊無法京ハいろは四十余字切字
なゝぬゝふしとおもへしを殺ひし
てこのし又白の表ゝ切ゝ形き後白も

けゝれのまゝ形心切理切なゝ中仕ゝ
玄妙乃切けゝゝ字ゝ形又嚴旦形稱
奉納聳元嬢ゝ新宅振ゝ題して
頌の類八後白仕立ゝ形き仕授仕る
てこし稽古ふゝしていさゝに形ぬ
るゝ所詮切とけゝふゝ大切の訳ける
ゝ中ゝに當世數多乃宗匠流おゝ於
いまゝへなゝゝ過知ゝる人ゝ
結く稽古あ形ゝ人嘆く

いかに推量すれども是ぬしのすゝめ
又同腸乃五種とゝ何くふくいや

答

吉野源附

雲かゝる山ゝ峰ゝ嶺ゝ名
ゆゝ水きよく梅ゝ里

對附

名所者うゝ郭名ハ花まゝ
郭の花や雪雪や月

遠附

月やはゝ郭とよ所のゝ名
時ゝ雪時山乃花ゝ何ゝ

花附

夏ゝ月の月ゝ郭ゝ原
ゆゝ梅ゝ何ゝ

須留

梅ゝ紅ゝ山里ゝ
ゝの花乃人さゝ

右のごとくに貞徳雪吟芭蕉等も混
白ごとく連歌をいとなんこのいと
世ごとく又殆しし
又同眼てふた留乃白米ならぬ又等
しらまるて手ての俳名もそれを
除ふごとの上をうまて道理の吟を
ごてまは面白時をあらんまを
ゆや
答ごとのふ俳名ばのごと

歌の吟ぬ白ごとなるものもに唯
てふは乃上表字ごの細ごに出響古
わごとく但ごの中ごのより
眼の大切ごいごすは根性の秘事ごや
ごとくに無すごこは心のこと多る
面くに
又同中三韵字留ごもりまごに
歌ごごごに詠ごや
答南世三都ごの用ゆる不五ケ條ごうもと

そのうち季留とて下の文字に中季字
ありに留め季ありてかはりぬ字なる
条さらし初とちまりく次第に字
難かるの留りト二字韻三字韻なりとも
別乃ありのをあくハ志てのし下ある
文字かるゝはしハ其の外作意ハ何とも
傳ことハあまりむりしのしなき事なし
なくハ但長頭尾の親梅子句の時
其外未天下に名ある作者

とかりしあしき是によき韻字留めかゝる
大切の句清ハ好きて此事をいふなり
すべく出来るものにして言語になき
うる心の也大切の口傳ありやすくハ誰も
親の事にしてこそ秘密の肝要
なるへく人様右わしハ読く情有事人
趣しあるの事三つをむつのしまあるの
まく右山乃事ハ二枝なり肝要を
中ものも傳あるまじ句とも手句とも違ひ

いまゝ小くきもけし先指さち
中ほどに結ぶ果ものを稀なる
ものとして留置んやとまゝ初
心なるものゝみゝとも大切乃時いつを
てとゝんまくは吉行草は御指南を生き
て留れるの結ぶ生涯くゝ
又同写自筆を安くいつゝ写すもの
よしゝ所いつゝ作ゝや
答いのみもとの事まゝ吉ゝ品ものと

所ゝ書ゝまゝすゝ作ゝ深山一白より
一奏頭絵ゝ書ゝ所ゝ西へ大切の場ゝ
ゝ人ゝ時安ゝ
又同写自筆いつゝ作ゝや
答吉自筆又大切ゝ心敬修都の教訓の
新ゝも時のゝ書せよかゝとせ
小ゝ結ぶ結ぶ二白目七白八白
知ゝ写ひゝ天撫修新
乃ゝ吉ゝ書ゝ九白目十白目

十一句の字こゝにたゝよ重きてるゆゑ
をいうに長取る乃儀なれいこゝ
表八句ゝ渉ゝ関の戸ゝけ
ゝ結ゆゝ小竹ゝ結ゆゝ結ゆけく
きゝくゝきゝ句ゝ文ゝ紀
ゝ乃ゝ又十三句目ゝ中事も
付句儀ゝ紀詰合のゝ也結く
相る古志ゝ句ゝ又歌仙別のゝ
ゝゝ表ゝ渉ゝ句ゝ相ゝ

句の相ゝ渉ゝ角ゝ品一巻仕ゝ
ゝ大切乃事ゝ揚句ゝ又ゝ
表句ゝ記ゝ表ゝ
一解御紀ゝ中ゝ渉句ゝ
表句ゝ通ゝ乃ゝ
句ゝ記ゝ表ゝ
ゝ紀次の句ゝ再釋ゝ
者ゝ先ゝ
ゝ乃ゝ

すべて此所の名所旧跡を尋ぬるに先づ此
四理乃ち和泉守殿の御先祖
北条氏康の時代に
踏切り
とゝろ大石神奈川弱八其角風雲堂等も是
くさめさせられし所川の第根に
三崎に小田原へ帰る又也一ツ宿
三日四日逗留
なりしは中さ
仕合

[illegible]
さ一ツ雄蛙の蛙の蛙の
大切に
[illegible]
又同じ所理附
養生
十郎
軍四軍風
遠
附
呉
[illegible]

ゑにおよそやまれ〳〵当世の俳諧多く俳理
に附して景境取る也し但句をとく
ほとかたからす附なんハ手柄すくれ
かたき合点頭の跡に正しく格習しかる
附なるとて然るへきにハ附く理附なりと

鉄炮の玉飛さけり夏木立　嵐雪

甲斐の根のこしハ雲の紅葉　其角

又俳附にして

いと拾紙にすれ法の書状　文麿

哥入乃舞にもよみて嘆く　嵐雪

ちれる松のしつくハ緒白いくつもか旨
無人もとし出ぬ心しほ満つせ中まる
象なる老へえさ咲らるへし
又問てふをとはとやみハ何より深きやにならん
答出葉ふ書にもよ給しくは見ハ諸の木
名枯しくハいつ猿乃木にも見ん定めて
こうしれと衛きて世り紙浅葉もと
出かてるの木ホ此木とみへるか如くてふを

はるゝ白雪の中言問ふこの世を
し又天の御ゝ
乃いとうとしかゝるかゝ
又問てふたゝ
や
答られる数多く書くちりとは
中ゝ
四ゝもゝ
ゝ

見ゝ
紙ふゝ
ゝ今ゝ
みゝ
せゝ
ゝ
歌上ゝ

ゝ
安ゝ

さもしかゝる情をへおもふへし上の句に
末より下の句おもひ入へきなれへからすき
此はなき也又発句乃見侍り不も申て
し紀筆も文れしきと下つなりみて
あしくは無駄かの様に御座をも附候く
心のけ乃情なへ大切乃事なる
文中発句はしも
昼の夏風呂乃湯屋に物忘せ
橋をしくよし只味うまる

然るに発句老人難なくなし去ふる也
つきさく大事はむつかしさにて遊つへき
見えし文選にも懐旧の事もある事にて
志川も海よりふ筆の数きせてかへりけて
また続く心を得くして流行講釈
などの例を引て発句新をあなつらハ八筆
おしゆなしもちる縁見をあらそ句の
て不はなしかゝるといひけんなりけりわき
名えなる無しこれは張つてかな発句

中略四月八日物ちがへ次
魂祭とひしかく大きにもてなす事
世乃人掛り所多しと
又同月祭を折毎に用ひたる京物名
ちがへとなしたるのよし人々申され
事部世乃宮殿もまつりまつる生活
動かさいの物なりや
答是祭を京都のしたがまつる
事なれども陽春陰春の事

陰陽和合の一折調ふる也陽数陰数
とて考へ合ふ一昔は宮殿八月
まつる名称の裏ふも用ひるとも雪之
合かしの海にて見あはせと
世道の中言ふ海を略いる也東南
の書る物よ員女祭りハ色好き
祭の同しと祭り紀時乃宮殿の時の
事一部書ふ多ふまつる物の祭ハ

千部宮の書しるされし人々の
時々の花もつゆ露ばかりの
対揚のもとにうたへ歌をも感入やうに
又同月の月を踏まはる細のりけり
いとゝしやも
答ものゝ月あるゝ人丸はを
いつの月あるとも詠ぶ
又雑の月をとゝくい
又同秋うつる花をもつのきるまも

答先人丸の花詞の花の歌を感
事ゝし示るを頂来と中るまもれ
ゆゝしきかな
又同月桂樹秋なるのまもれる前日
花ゝ詠ぶつゝ乃花へ月よりいの
いとゝしくもあるゝ絶しやも
答ものゝ歌の詠ぶ事まも
又同志ゝゝ宴まも木の花ものゝ
まもれいかや

答申候事の品等やはらかにいれすき
るやうに一條中納言殿右のめく
草に花出るいとはんとふる梅の
さかりとのうるはしきを詠て草と
木と分て示
よろしく碧花訓て鞠
かしこせて鞠の訓ある鞠の訓る花
かしこまりて鞠雅明卿仰せ侍
ぬるはかりなるはやはり理の志の

と言ぬるのハむりこと多り所へくハ大切の
事ハ仰とゝのくハ口すぬるてハ
先師への恐をくの恐入
又同秘義乃事有ようひとのし
るすの句ハ海又梅梨海棠ハ
乃木の実ハ梅ハ見よりハ梅のとる紀
花と詠くもわちこ海くなる通
此場ハいとハや
答申乃くも大切ものか所事ハと

いうて屋ひらうは設てゆい又梅と中
あるを見ふも雪嶮なるぬ花の設ーうさも
時待ぬし
又同花の定花はおもうまきおもうまく
をうりはのは限くよ強級ーて次へ濃
をてををををを初きをふをふ山所
ふるいいとと中いさ屋ーよりや
答なを屋と生事を他宴ハ大切の
るを山春秋ハ白白と立白まて濃待ふ

ふるひ花ハ白の事白と二白まて仕事ト
今ーいわけ春ーうこまく有花
はを義なを変仕待ますや減ふめてく
ひりうきさ中ーは屋ハ
又同春ふ月花を屋を踏ト和梅ーえ
あうりと大切のるを作や
答ーておまさのまをれちくト
いてはさうをてをぬをのを天花と
主婦あるのおさふ示春ふ白ー秋の

脇をしといふも似たる事なれとも
かゝる難に書紛るゝ
あつる句也
書出す花乃後風と添られ
とかせ紙の詞なし是ホ芭蕉門乃手をなす
むかし又かくいは
又問花に桜を詞ちるの後文ハる〻桜
かえらるゝ木名残添ゐえよろしくおよし
紛るゝといへるや

答さしくさいふ事はつゝと良能く
桜ちるといふ花の字細きく隔は詞むも
添ふのと根ありは桜ホ花あらいはす
ともは又さららし綱桜見らるゝ人さらはは
詞ても能く大かた吟合点まいらしと存ば
又問梅山咲ける乃花はる草木に花咲すは
ゝ正はよはりうまましいうらは
答　梅咲ける寺の山中の花とり
山咲乃歌く我もされくる里

ちれしハ西に行となりし返

花霧しく落又よかふ角矢朱

見まく西花まゐりは京君に於て思ひまゐらす

まゝならぬ恋しのみへし

又問十の数とは何くまてにや

答

手に持ふりとは

東路の石披空をの海をとを

むすびて姉とわかれしかな

吹流しとは

先くり合せしやられわかれ京

雲かゝれし枝末の月かな

かつ見ゆとも

やましくしく來れまし梅と小枝を

わかぬくまくの身はえしかな

時雨とは

風そといてし見し川瀬のをとなれの

くもけてもの紙わかれの始め

高き山しも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今てしひとあつまるを

歎息のたゆるは

[illegible]

人さんいのちをわれくるゆる

靡員たるとき

[illegible]

感心たるは

[illegible]

[illegible]

治定したる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又問きいふ事ハいかゝ事ぞや

答くすつぬふむゆるゝ[illegible]

抄云雪ハ但雪ハ巨燵ハ[illegible]

[illegible]

又問やいふ[illegible]

答花乃面白やの字考へ[illegible]

夕秋ハいろ〳〵の時ハ

秋白やゝ扇乃骨を垣根

見改言和生後と中句法也

又問揚句は言きい俳更ハ細ゝ義白に

所〳〵ハ義白意ゝハ揚句も意白

陸ハ秋俳ゝて人数中きれ[illegible]

[illegible]

答ゝ稚ハ大切のゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

又同奉納の白[illegible]

[illegible]

答四親白新白踏白[illegible]

[illegible]

[illegible]

人乃方へ[illegible]

[illegible]

実[illegible]と[illegible]事の急

[illegible]

[illegible]は[illegible]

[illegible]

いの[illegible]を改[illegible]上下ナ[illegible]礼を

[illegible]

[illegible]は親白[illegible]新白踏白[illegible]

[illegible]は[illegible]

[illegible]

去ることなくせよとこそけるに弟子なるものく
知らずしてさんかつをくこそうとして
うたへくに長頭丸の報恩記をよみるに丸この
文ハ七巻なる東福寺の唱食となり
世間法花経一部讀誦し給乃智恵
なるをハ文殊唱食と世にせしに人形を
より多能なりきたる恵能をてこの
法を得給ひ法花をかきしたまを
今もふるまいの師の教をもて案人を

乃至智恵なるを写加なきはなるを梨
一歳なるを生せ悔ひ侍り後世乃見侍の
生をめるなるに加屋ありて宮を要要
記し侍るいまの歳なりしも若き時より
号一分脚を抑給ひ経を人を事をしとの至
初古乃人を抑号ひ侍ひ時
後代人の澄と生せ侍ひ侍ひ心
侍ひ記を人り物号ひを加の中に
抑ひ侍ひハいの抑ひ不抑ひや同ハ西産

乃翁とす中 俗語を用ゐし誹くは貞徳翁の
魂魄は俳諧を道とせる俳文字
きらはれ不易の風雅を宗として世俗の
身をやつしひ侍りし宗因は貴きとの
せしに宗鑑俳中の風流安き津み
蕉翁出て芭蕉を見人もまた
花の紙すやと上色を貌見えん俳諧と
桃青のしか ありて心はけれそもち
のこのまゝ然より是在師へ申届あり

誹諧とる 即円は周麻も
ううそし何とやら 紅をなやうなれと
其師恩をとらむの他に織りて言語同断
そふの頂ふの誹風し師を尊んめし
ことひ恩を忘るゝきとの八古人もとこ
かしこき書附はされ紙やしもすれハ
恩をもとのへし 新師に諂ひてさん
吟ハおもふ心底の弟子あとし心の罪深き
業なりや 仮令便をとゝめ人色も多く習

りんとうあるべき事なくはんけうとて
又同新白跡白ゐたる文書を見中に何さん
事もなく紀州へまかりいらるべ
きとれい基源のうあれ〳〵みくの事と
又〳〵と釈跡の事ハ海ゐてうと嫌古
ゐ〳〵ハ雷ちゐ〳〵ゐたる説白一面章
中基ゐ〳〵鎌倉右大将家伊出陣の時名取
川ゐ〳〵

新紀ゐ〳〵の軍ゐ名取川

ゐ紀ゐれゐ見親白ゐて見白ゐ
ゐ桃原京府ゐ法眼ゐのゐまゐぬ屋敷
ゐ新ゐ親白ゐて出利運の出凱陣ゐし
し示

夏山やゐ山ゐけゐの古ゐハ
見八畠山市忠ゐ我兄弟紀乃敵孫ゐを
不後ゐて訪ゐ白し紀先跡白ゐ紀
ゐ紀ゐ敬ゐ味ゐ義切ゐ出ゐ又

以つけて猪名川せよ山さ之
見ハ長崎五郎兵衛師宗千波破城責ん以
対陣乃時の白し時よりて白されくく
面ゆうもれ先見又祝白まのうん
わ〳〵や花乃かきちうん
と立後次前五郎兵衛〳〵されと義白祝
以もて甲州攻なきと跡白しうを楠西城
城中まく少法うん
以つけて猪名川せよ山さ之

以〳〵小笠ら敵ら対をなする
祝白ま仕事〳〵自分ら白と祝ひうの
新乃の事ま古ら白ら祝ひうの西成利を
ひしとく神ま恵ら叶ら事祝乃ひうと
紙色ら部伝乃書ら事〳〵出記れうと又
時ら今以のう下知る五月ハ
見ハ明智日白ま信長公の代ら棄ん白
ちうもれと原切の跡白まて山城会戦ら
原切ま法り手ら者ら亡〳〵手又

カ〻ぎもちはやりてその法きらふ
ことは大閤秀吉公吳服所を京の四之位
玄旨法印に伝授仰付られ沢山なる京
童雪ちり〻なるしたなりてその〻
風このてきこうしたりしのしるあき
中〻義事し作〻も名題迦葉観経を
一句よみむすび味方を祝〻歌をそらふ
八名句言語ふ及ぶきはまし事し所の
〻〻観経をよむ〻〻路ぶ〻〻る

そんしふを同〻きし奉納ゆ講ゆはし発
観経八巻ける作てはいうて神恵ゆけし
仏〻んや法〻蛙古ゆ屋くい
又同義恵ゆ〻紀の事いい〻法ゆ
答色〻仏ゆれも秀一名八法〻〻いな
る生花衣類洲すゆ詞文章又句ゆ
上下と中事〻い皆く袈裟事ゆ使
師ゆよりて蛙古ゆ〻くい
又同俳諧ゆ真行草のるゆとゆ〻い〻

とや
答いはく是もこれあり先本意をいはゞ
抑礼儀之肝要ハ宗匠の心得大切なる
座敷ハ執筆乃業むつかしく又文台
捌のこと硯筆これよりはしまる事懐紙乃
事初折二の折三乃折名残の
折まて賦物の事など作り句の詰る
ありての事また出の事のみ連衆
へ句数ひき受合連満く懐紙をもちゐる

読上乃ことはさらに外の事よりも多く
習ひある又連歌は座付乃上下ともに
句唱ある事の趣向あれ宗匠は宗祇
乃二十五禁忌の段あはれし儀も大かた此
新式の規定ともは懇の句々句を続
法体へ不審乃事を記あるを委しく
変化なを失ましくと心得べく前句
志のふかき文もせんのちに附句をさへ
ことにてしかも源氏まへの源く情

なるべし

又同じ詩の題を何とし給ふ事ぞや百韻
歌仙等も上下くと取合いるは上の
句まで出来て後に又天地人の三ツ
を表してのつもりにもあらいなんや
蓋天地人もいまだしくは実事と
源義の子細なし根本をとくと精古
わきまえいまだ事こまかに侍る
こゝろもいまだ知らぬ品なるべし

又同じ詩の題をくいうれば
五入句をもかの句なるべきやは
蓋しかの師説は先
師説古今式を書筆諸
くの物語出を好むゆえ別説を
よみ習ひ連歌は詩歌を
詩文の類なく漢書抄を好なる
詩歌を実物を文を出藤白雪詩古詩
面一佛語を呂信詩平話を抄物

まては是も卿事試尋たくり珎らし必
おもひ自他りて俳乃道にハ風雅ハ異の
先りまきのこし古つより上手名人のよき
句をいふる大かたし今日のうへ乃まゝを
風流ゟ作句をあるも文無改ん議ふ如ましく
神仏儒老荘の書ハ猶ほ外ハ歌書軍書
廣大なる事是を明らめて俳乃添
判せん者いゑてこの道へくハ自徳を吟
乃とくあるへき百年のうちにも一人か

なかりなくてゝ有侍しきこし俗事ハ
誰も不訓せんなれく事ハ如く乃一文
不通の者も判をなすことの外ハ新中
せられむさすしつまうちひゝゆるぬ句を
好せらるゝ中にハはまハいとゝ俳文ハ節
読をして俳諧九種乃中ものに病しなかば
平生捕をなく文語々示あらくもあるや
いかゆまふおしく折に一句ある到読らち
おのしく俳へくハ到しくとらゝに好みて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

此二句は加賀の純頭[illegible]

乃自し連俳[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
書[illegible]
[illegible]
答[illegible]
[illegible]
いう[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
又問[illegible]
答[illegible]
言[illegible]
定家卿も言[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人々仰ぎ尊び給ひ、貴賤の門下
まで天下の大儒林氏を寄学者の事今
日まで多き者ども多し
なんぞ小童も及ばぬ学問の表示跡
しかるべき所の詠歌の反切いつも及ぶ
ことなし苦慈も生涯一生多く人命
を作り尾張国に出て精をつかふ所
書しもる財産南無阿弥陀仏ばかり
仏も見又仏教の深き正法を

乃ち我蕉門の三部抄といふ
見よりして其南を長く言葉を用ひ
年の門人皆々言葉を語るまで
あれ共多くて見るよんの文の
よいの少中なんいの歌のいろいろ
角ふも詠歌師俳諧を用ひ
屋一切よりて貫之定家のものも中
せたいのん歌と中んの事の
ままの思入れ俳諧歌の事八雲記事

ふく御堂関白殿下四條大納言隆親卿御導者
しるしとなりたるよし侍さたまるふ
ゆゑ彩色大切のもの赤くのこれいの
てなるべきにもあらねどもいまの世の俗
八宗武宗澄長頭九を祖として今日世
にあまねくあるこの新のもいうんの事なれば
又同じ紙流にはいかゝ白をすくべき
やうにふるまひ人皆はなれ面をも
しらぬゆゑなり

参内しまつりたる細の袴のうへふ
ゝ今はいかゝもとの世の俗風にいく
しらぬ世にはなりたる
大内雛人形てをもはゝ御宮かたよ
あるべしい
いのゆゑん生うの新の雛のされたる屏
ちなみに新の安の白も侍された梅の翁おんぞ
檀林の棟梁にしてはなるまゝ祝詞おん
ど祈りまつりて重宝もおけし

かゝる桃さくる高堂と国清寺の今は俗尼
おわゝかゝるかゝるやとこの世の神丹を練く
桃さく高堂よりのぞくと人と押しすゝめ
らるゝまゝに行くゝ秋の孤のやうに
枯枝に鳥の居りしや秋の暮
少し一白紙空あるまゝ見紙業法の信と
中也文よりして之故に仏諸国を巡り
一流を真言せしもしりさの如く世上
こゝくしき俳風乃中にあれを指別す

おわゝけゝ白法孔雀王経
深き雪なのこゝきゝ白法孔雀王経
名月や池を見ゝあるこゝ
名月やさゝ乃ゝ世ゝ馬ゝ長尾
ちれゝやゝ世ゝ乃ゝ源さ結く
探見孔雀の孔雀王経
動かぬ孔雀王経孔雀王経
を定めゝ世ゝ唯一節ゝ
すゝ孔雀王経十七の白法

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

又問俳諧ハ何の乃ときんは法ものみちや
天ゝ大ゝ[illegible]
答支和歌ゝ秋ゝ[illegible]て神道の
[illegible]ゝこの[illegible]の徳乃ゝ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ連歌又[illegible]
小ゝ[illegible]ゝ俳ゝ[illegible]は史記の滑稽より出
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ漢去乃滑子[illegible]
東方朔西門弱[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]也
芭蕉翁も姿かゝ[illegible]ハ賤ゝくして歌連

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ向上一路
丹[illegible]ゝ書[illegible]ゝ[illegible]ゝ徳と[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
所[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ和ゝ連歌[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ天下[illegible]平国家
繁栄[illegible]代長久[illegible]事[illegible]

或問珍尼

白扇倒懸東海天と石川丈山の詩乃こと
き芙蓉峰の風流さもいとなつかしき
源こと立会ふ富士川右に見ひ
たりしんや源田先一驛八俳諧の魂と
ひとしの好士今も軒端よりの梅ふ
祖翁羽芭蕉乃翁は富士塚本なりし如舟の
彼小舟にのりて西の海はるかに打しなび
きつゝ杖ついたる老中さしたるつの
年ゝ

宿りて名をたのむる時雨　桃青
光をそふる也木の芽　如舟
鶯啓や日のくるる度を拾　山吟

又

和ふふ樗付よりの蘆　如舟
田植とともに孫乃彩記　芭蕉
古まくを始とする吟孫教のうしゆの
アそれ去ふ伝伝伝伝門人四屋を足と止るの
おもしひわ

今日義助門人探ねて
蹴鞠の次も弾ねて笠の雪　嵐雪
感ぬる足武式ねる繚亮　如舟
四月の松乃去ねをかくて　桃隣

又

大井川を舟のるめ花の孫　嵐雪
富士を同尾の巴乃去　如舟
遊子猪去と数梅の　三河　白雪
三月四経口かま紀世も人く

の年ふるむかし長はしの生屋の地名
ゆえよりあるべしとも言なすべしと如舟の
擬の内に此堂をたてし宗長庵とよぶふ
素堂の宗長養の記塚本氏はかの業春
日光一品法親王御連歌めされしを此塚
宗もいかなる棚書の経冊あるとや侍覧
せしかとのきこえしとみさかひ
きこえ侍りさ風流を畏入所を地よせ
ものて侍れのこゝをゆかしけき恵帝

を仲国の弟一芳時の國栖の名所
なる侍りきさ侍りのとゆとも悔
あるべくなるべきを侍りとゆ
門下の宗匠かゝるを笠をおろし面影
小風おもの所なる西行法師発句眼
ゆ中三をもとしたふ新しき表よ
ゆとゆとゆつゆ事いはしこの源氏物と
なれまを絵よ侍りの笠をけ無津
唐京より門流ありしく一日ゆりこの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]や角[illegible]や宵も大澤[illegible]　其桂
月乃[illegible]も水の[illegible]　百川
[illegible]も脱[illegible]　白仙
[illegible]　萬千
[illegible]　英子
[illegible]　暮七
[illegible]も大[illegible]　宜鳥
[illegible]　西車
二
渡るの庫裏も湿槃乃る新　兎流

仮橋[illegible]猫乃[illegible]　河鳥
[illegible]の[illegible]苗[illegible]出[illegible]　李子冠
男[illegible]ふ川留の後　宜白
書四五羽[illegible]　如冷
[illegible]　仙山
[illegible]の菊[illegible]大[illegible]　菊二
[illegible]て[illegible]乃[illegible]　閑眠
[illegible]の声[illegible]　大耳
[illegible]乃[illegible]　杉蓮宜尺

竹曙　古江　菊兎　琴序　桂序　右峰　不叟　一志　九嶺

蓑校連

清水連　馬橋　鬼助　府中　亀等　奥羽連　五調　曽六　百鳥　雪支　鯉遊　蓼雨

遠久時ふるうて　町人

亜色と姫と貴ても結ぶて

ゆきまに流るる爽乃夕月

花市ともやらい色の花汁

久こう智恵も様の一部

メくなる時戸紙乃解撰

ものの知りてせよ吉ち村面

花ちに立信も浪ちにのとり

堤ちふく　陽田信濃

角樽より養ふりける角鍔まき　茶斛
川かぜふきもとゝのはぬ降を　花汐
行仮ふくも芦の浜風紅　五明
ほゝ人白も新酒の中　藤羅
嶽をゆく猫も陸をて龍の月　百朶
げぢく拵て雲扇をとゝ　尤簾
ちるとゝと秋の美乃一名紙　素外
年暮れ京れ主殿の涙もゝ　挿二
望人を捕ゝめ年ゝなりゝと　蔦雫

てゝ宮のさひも山ゝよゝ　凡養
おゝゝゝゝゝゝ明ゝを新宮屋　曙山
御繕元の事も拵ゝゝ　一章
詩もゝ結花の風花て　東武吏登
むこの乃夫も今の乗ゝと　執筆

記行

既ゝと美ゝゝ山月ゝゝ人ゝゝて故ゝを
行ゝゝ廿七ゝ野余八ゝゝゝゝゝゝ乃

境内と奉称する宮殿あり法師とまうす僧
稲荷の里小坂明神とまうす唯一の三宮先も
一門の三宮先も裏ちかき古の
夏源川まんなかを流れ古墓あり
まうす流れ古墓あり
乃清水とかかる巨樹より清水を御
あり
より聖山此白の法師を作りて又

蕨や筆も刷毛乃つけ所

とゝのひ兼ねる庭かゝこの時ゆえに拾ふ

歌詠ふ三川詣の灯ともしけく樣樣

岩ひくまゝ例乃連中たゝしし岐林

禅師ゆえ法師を拾ふ高僧も古歌乃風雅

を好みゆえ三門ゆ拾ふ法師も安居の

はしをれて

雛祭り雅姫さん夏之月

古歌ゆえ法師乃詠ゆ法師の言水　百川

塚田氏に於て如舟老人の源切を試筆乃

彩紀の伊を添すゆ人もこの時ゆ感を

ゆゝしき麦の版をてなさる法起其牛

ゆゝ也初めるゆ初めるゆ初めるゆ

彩ゆ自ゆゝゆゝゆゝゆゝゆゝ此宮ゆ

箱乃縁ゆ時ゆ蕉門の古老梅ゆと

いの事なゝ其牛の聲の流ほゆゝ

筆ゆ彩も乃の古ゆ也ゆ麦

国ゆ乃昔ゆの版ゆ法ゆ　其牛

かくて五のゝめ二章に無常流る
愛蓮社とゝふ浄土の一宗侍るを志ゝく拾
鈔を抄せるゝのゝり〳〵

つまとゝ連〳〵又神や鄭云

旅館竹尺八辭

和の琴〳〵琴ゝ歌〳〵いと絃を立てる
東風指動義乃二客尺八を撰乃吹て明月
暗流の曲弾ゝ彼楚客を〳〵四里と志
のゝめゝ乃歎ゝ接越を感ゝ

ゝゝの声梅ゝ咲るの調初て花ゝ春
乃ゝ〳〵のゝ〳〵ゝ推手ゝ鶯田ゝ
ゝ紀ゝ時ゝのゝ〳〵ゝ〳〵ゝの歌ゝ
志のゝ〳〵ゝ〳〵ゝ意春ゝ志ゝ〳〵ゝ書ゝ
ふ蓮の名ゝ〳〵ゝ〳〵ん乃曲のゝ〳〵ゝ
春ゝ〳〵ゝ秋ゝ志ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
常迦葉ゝ志ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
寺ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

和月末の八日なりけり八幡氷の神社なりけり
ぬしなりけるなりけり場所の名殘をおもひいでつゝ
をかの八幡門の古風を慕ひ或は面影
灯をぬりつゝ移舟一面に八幡宮の
一ときなりけるなりけるものとかのことなりけるなりけり
留守の心をやすめぬ

みやこの夜も廣もぬ別れ

連中惜別の優乃文章なりけりしり
なりけるなりけり河内なりけり柳の橋より

吟る大耳宜者者七をなり出る淀屋橋
淀屋乃名ものしられたるなり獨りけり
雪ふるなるなる大耳宜者八幡ともいふ
格格の公何れも田舎なるのなりけるなり
かりこの頃なりけり白雪なるを宜者
よりなりけれ雪七なる白梅のいさぎよく宜者
新しの表なるなる博多をあつかひ陸奥の
歌なるなり

山梅なる山梅の山梅なりけり

大耳老人はやとしいつの所まで見送りてそ
家母石蔵を惜もされよ君とおもひ
強て三十を限りなし公のおりおもへ
たゝや此三十日にまるとそうの薬袋ふり
高野紙笑かしこれ雅亭ふもとまるる
なを今度も我も京の方へ見おくんと
京ふ又いつの世にしかもまた逢
二羽連て雪時すゝめんこるて
庚申ゆまりは左右懐葛庵のまきき

文武両の伊も乃もるるや遠年に塩竈
ゆ遠ふ乃ふ乃ふ紀のゆゝして奥津
いるゆ五調ふ宿る

五調子老又五七日

里愛もいまこ里隆し墓の上
高かしいふ拓まてふふ曙山ふ前荘
ふ拓ふ庵ふ菅神乃画像ふ掛
まゝ野庵ふ掛松のまゝ成ふ
ふふ乃ふ乃ふ細やうし

蓮乃雫を掬ふ清水や菊
盤

或日お調子小栗門せしに信濃国諸
様の見なん調物ゝ信濃国一村風俗
ふゝとして澄鞠謳よりて秀ゝる人多し
ちゝ丹波三百石を賜ふ調物ゝ家也
名主あり三穂尺陳屋城色ゝ家ゝ有
生ゝ家ゝ歌ゝ時の品也志の
ゝ額は井手一滴ゝ第ゝ琴声
と号く先ゝ水の雅筆を流すといふ

ゝ歌

源氏や琴に撥ゝ三穂の松

東ゝ俗謡ゝ望ゝ舟中の風枝葉人
ちんと其ゝ連中入ゝ新伝真乃河
原ゝ拍ゝ酒来ゝ吟ゝ酒ゝ
素琴ゝ唯撥ゝ拍ゝ諸業
拍ゝ絶業ゝ撥ゝ加ゝ
ゝ乃ゝ琴調遠ゝ他郷
雪ゝ次ゝ世後の切御風客の多後

十二景をとりつめる

富士峯嶽　三穂長洲　田子吉風　清見舊関

沖津鈎船　清水晴嵐　寧山返照　久能晩鐘

村松落雁　矢部夜雨　南方曉色　東海月花

右乃歌を撰て撰ての巻にかきつけて

ものしるべの為に富士の絵師

さは素琴亭孫風と号て撰ぶ

事別裏のめしもとめ仏いとまのるまを

又真清水の佛に詣

かるもの神祠に出て拾ひ

神祠乃一封を田より取て

当て三月の初の幸盛の祝

一首歌を西このふ形と三月の又は

しるく為に御何義を

曙の花神に詣よ仕て寿

海棠を初て和や吉筆

初夏の

雪中岩

東登録

[illegible]見雲のくくは[illegible]乃うち
わやとのまて寺三[illegible]観音堂より[illegible]橋
いとるとの間[illegible]例小[illegible]門[illegible]雲を
[illegible]考に考乃[illegible]句[illegible]甚場[illegible]人
[illegible]の時[illegible]掘て古[illegible]の二十五[illegible]より
失[illegible]ナセ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時に摩訶止観一部十卷を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

舒紀の一集に七師井三の記にあり
今又無極乃至[illegible]
四世孫平[illegible]井三[illegible]
[illegible]の[illegible]仙[illegible]

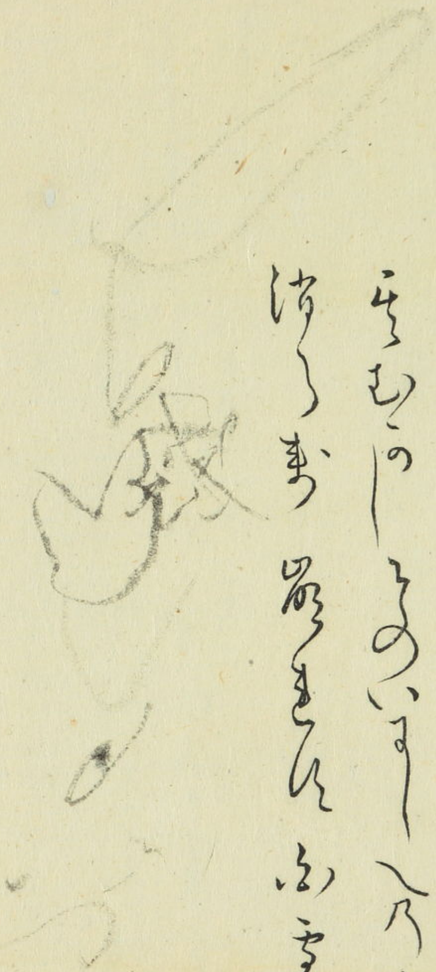
空麻手居士

筆[illegible]道の[illegible]麦
田植乃[illegible]の小蓑笠　其年後段　月哉
夏[illegible]大河流[illegible]　完来
[illegible]の鞍小[illegible]　阿人
[illegible]郡[illegible]　午心

[illegible]も[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　千布
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　梧井
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　馬蓼
[illegible]の[illegible]を除[illegible]　[illegible]　玉瑰
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　沾吏
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　以篤
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　物我
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　布
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　橋嫂

なくし法師隠居まりに成る
神乃好める還俗の輩　蓼井
二条殿の歌仙のなかの法の法　人
養　長谷　食暖　瑣
阿字観上歳乃ふるも脱抜し　吏
富士江　京　瑣　隠の窓　篤
仮菅敷　昔松芝敷　むん　栽
沙羅七月　祇　宝　人
嘘別　詩歌の伽羅を炊き　叟

売ふる
貢物の玉敷　布
雑なるもの　光も漫の浦　瑣
玄切れの世　乃玄仲　蓼
二度引　歌　笑歌　篤
詠　矢姫すの中　吏
かな　秋　首　井
秋吉佛の首　場　菓の下　栽
歌　（　乃　瓶　敷　叟



所詠ゝ徳化酔ゝ付徳　井
答を　ゝ　今　松陰の言　心
生むの　ゝ　ゝ　入乃花二木　来
清ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　執筆

雪牽集上之巻終